

出句用紙(番号) 1

作者名

桃

マラソンの豪気な熱気街師走	○	冬麗の吐息すべらせハモニカ	◎	仮り宮の一夜の宴冬の月	○○	天井に穴風のアーケード	○
---------------	---	---------------	---	-------------	----	-------------	---




出句用紙(番号 2)

作者名 へちま

赤子ごとくるむコートの檸檬色	産土は愛しきされど冬に飛つ	命の灯今消ゆ母よ冬の月	単線の駅名素朴山眠る	故郷を離る聖夜を終の夜と
〇〇〇〇	〇	〇		〇

出句用紙(番号 3)

作者名 福田光弥

	<div data-bbox="1059 387 1163 1535" data-label="Text"> <p>冬晴れやあをき単衣の遠の山</p> </div> <div data-bbox="1197 1070 1232 1172" data-label="Text"> <p>いとえ</p> </div>
	<div data-bbox="900 383 991 1435" data-label="Text"> <p>冬月や虚空を見つむ樹脂の犬</p> </div>
	<div data-bbox="708 399 868 1512" data-label="Text"> <p>藁仕事たばこ<small>くち</small>燻らせ投げキッス</p> </div>
	<div data-bbox="529 417 644 1589" data-label="Text"> <p>ペディキュアやひとひら落つる寒椿</p> </div>
	<div data-bbox="357 410 469 1456" data-label="Text"> <p>バスを待つ人のあひだに寒雀</p> </div>

出句用紙(番号 4)

作者名 米田よし

〇〇				
待ち人と仕事終りの冬の月	胃肝臓 ストライキも冬の波	JKの足に敗走冬將軍	夜半なる結露や空の洗濯機	時雨夜のタイヤ音また遠ざかる

出句用紙(番号 5)

作者名 上田秋霜

通り過ぐ。ピザ屋のバイク冬に入る

人溢るあまつさへ短日の京

名人は舟傾けて海鼠突く

肩組みて高歌放吟冬の月

冬、紅葉鶉越といふ難所

出句用紙(番号 6)

作者名 真一

00	移ろひし世にも凜々しき冬の月
00	白山に靈魂眠る 冬の月
	あゝ頃の吾はいま何処 冬の月
	冬ごれの列島 華人の波絶や
0	運命にまた生がされて年の暮

出句用紙(番号?)

作者名 平草

〇	仕事終へ秋を見送る二番線
〇〇	白めくりを一度に破る十二月
	木枯らしに舞小一塵の心晴雨
	襦袢の底に眠まる夕の寸
	行く道のそこは古里夕の月

出句用紙(番号 8)

作者名 関 洋子

○○○ ○○○	○	○	○○	○○
食べかけのケーキ 聖王一夜の夜勤室	背伸びして星は 聖樹のてっぺんに	じつと見る賞与の 記載無き通帳	逆 <small>ほとばし</small> るコチュジャン 街中華の聖王一夜	眉を引くドラッグ ウィン冬の月

出句用紙

(番号 9)

作者名…(安藤) 英彦

	みしょう 実生より花芽数へて春を待つ	○	わせ おくて あやつ 早生 晩生 時を操り秋起こし	かんむり さんさん 石棺の冠飾り秋燦燦	ちりもみじ 水に舞ひ風に踊るや散紅葉	なんめい かたりべ 兼題句 南溟に眠る語部冬の月
--	-----------------------	---	---------------------------------	---------------------------	-----------------------	-----------------------------------

出句用紙(番号 10)

作者名

すなふきんじい
砂布金爺

天 桃 せん	角 生 やす 如 き 波 頭 や 夕 の 月	特 桃 せん	大 雪 や 湯 治 の 谷 に 湯 気 の 塔	ま よ し せん	冬 日 照 る 神 戸 の 沖 は 銀 の 盆	わ こ せん	晚 秋 の メ タ セ コ イ ア や 燭 立 つ
--------------	--	--------------	--	-------------------	--	--------------	---

南柯句会

出句用紙(番号11)

作者名

近藤和卓

○○	◎○	○	○○○	○○○
クロークにコートを開演五分前	聖樹前泣く子拗ねる子手を振る子	胸の子とカートに二人小春かな	冬の月送り狼にはなれず	海鳴りをなだめなだめて冬の月

南柯句会

出句用紙(番号12)

作者名 山本わこ

金継ぎのコーヒークップ冬の月

。着ぶくれて七女想族の母娘

取り置きこのショート小説風邪心地

老ゆる母からのおねだり冬牡丹

団栗のしきりに落つる裏参道

出句用紙

白井桃紅

窓枠に縋りて騒ぐ北風よ

箱罨の四百キロの罨かな

。北風に揺れるカーテン猫覗く

。釣人の丸き背中や冬うらら

。修行場の僧の瞑想冬の月

出句用紙(番号 14)

作者名 山本藤所

◎ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	◎ ○
クリスマススイブ素うどんの葱刻む	銭湯のフルーツ牛乳聖夜待つ	とれさうな青色鉛 <small>鉛筆</small> クリスマス	山谷 <small>かたや</small> きものにゆすら氷月凍る(兼)	スカートの裾から流れこむ師走

出句用紙(番号 15)

作者名

レヤぽん

〇	〇〇〇		〇	〇
月凍てて 55 / 手にあたるまで	指 ^め と 指 ^{ゆび} が 触 ^ふ れて 遠 ^{とほ} くに 冬 ^{ふゆ} の 月	ハ ^ッ ウ ^ン タ ^ニ に 夜 ^よ 干 ^ほ しの 布 ^ぬ 巾 ^{ぎん} 月凍てら	月 ^{つき} は 天 ^{てん} に 凍 ^こ えて 日 ^{にっ} 本 ^{ぽん} 国 ^{こく} 憲 ^{けん} 法 ^{ぽう}	地 ^ち は 凍 ^こ えて 土 ^ど 星 ^{せい} に 六 ^{ろく} 十 ^{じゅう} 二 ^に 個 ^こ の 月

南柯句会

出句用紙(番号 16)

作者名

文蔵

一	一	丁 ^{真二}	丁 ^{代名持} 丁 ^{冊彦}	一 ^二
逝 ^キ し子の文机 ^ふ に鉢 ^{はち} 月 ^二 牙 ^一 ゆる	月 ^二 凍 ^{こほ} る受話器震はし母 ^二 逝 ^キ ぬ	凍 ^い 月の涙 ^二 の小走 ^一 り出国口	月の牙 ^二 ゆ弥 ^一 勒半跏の指の先	牙 ^二 ゆる月 ^一 ユ一コン河を下 ^二 りを ^一 り

(17)

出句用紙

作者名 藤 久 三

○	漂流の旅の傘寿や枯葉舞ふ
	秋恋ひし日本は二季となりけり
	時雨ふふや地蔵のほこり流すほど
	年の瀬や子らいも塾の休みなく
兼	残業終之急ぐ家路に冬の月

出句用紙(番号 18)

作者名 二 晁

〇〇〇	〇〇	〇〇〇		〇〇〇〇
花はらの反りかえるほど石落日和	年 ^{とし} 齡 ^{れい} 重 ^{おも} ね肺 ^は まで届 ^{とど} く冬の月	皐 ^{あかぎれ} は山の暮 ^{くれ} うしの聖女の手	冬 ^{ふゆ} さるや真 ^ま 夜の信 ^{しん} 号 ^{ごう} のLED	寒 ^{ふゆ} 月 ^{つき} や身 ^み 代 ^{しろ} り猿 ^{さる} の守 ^{まも} る町

南柯句会

出句用紙(番号 19)

作者名

南柯

雪しまく山沈黙を守りたる

冬ざれの山頂包み込を陽光

冬鷺の首湾曲に佇めり
たたず

一と仕事終ふ職人の白い息

冬の月浜辺に染まる空の蒼

南柯句会

R7
12/14
南柯

15. 11. 1911

1. 1. 1912. 1. 1. 1912. 1. 1. 1912.

2. 1. 1912. 1. 1. 1912. 1. 1. 1912.

3. 1. 1912. 1. 1. 1912. 1. 1. 1912.

1. 1. 1912.

4. 1. 1912. 1. 1. 1912. 1. 1. 1912.

5. 1. 1912. 1. 1. 1912. 1. 1. 1912.

1. 1. 1912.

出
句
用
紙
(番
号
20)

作者名 山崎 たか

雪だるま令和のうらはは三段に	牙ゆる夜路地裏酒場前に薨	駄びアノショパンメドレー冬の月	満ちて朱塗りの杯の冬の月	可成り早のうらなに冬の月
----------------	--------------	-----------------	--------------	--------------

21
85

出句用紙・作者名・宮本こぼ

れきしや

歴史屋は頂上極む山紅葉

まきがま

薪窯の煙の重さ熊眠る

しやもなべ

近江屋の竜馬軍鶏鍋レノンの忌

暗号はトラトラトラの開戦日

冬の月詠み分からずの句碑てらす

出句用紙・作者名・富野香衣

② 飴色の灯り点滅一葉忌

瀬戸内の光丸ごと蜜柑食ぶ

② 缶蹴りの缶は置いてけぼりに冬

① スーパーに広瀬香美の冬が来る

② 寒月や落款印の著き軸

出句用紙・作者名・鮫島しょうん



駆け戻る子は草の実に愛されて

熊鈴のやたら騒がし山装う

輪はかたし混ざる白息弾けけり

月冴ゆる人こそ恋し無人バス

冬うらら弾むボールの拍子抜け

出句用紙・作者名・横田清史

⑤
○
○
ズワイ蟹メスは吊り目で卵持つ

瀬戸内の牡蠣の不漁に謎深む

○
赤だしの冬菜味噌汁愛でにけり

⑤
○
一個ずつ風味異なる蜜柑かな

真空の中で澄んでる冬の月